

E-16 未解放部落における住宅改善要求—高知県高岡郡佐川町永野部落の場合  
高知大教育 西島 芽子

目的 未解放部落は「地域的で歴史的な貧困」という問題をもっているが、農村部落において生活の貧しさ、住環境の貧しさがどのような形をとって表われているかを明らかにすることが本研究の目的である。今回は特に住宅改善要求を通して上の点を考察する。(全般的な住居問題については1972年5月の中四国支部総会で報告した。)

方法 調査対象地の永野部落は戸数200余戸、農村とはいえ、世帯平均耕地面積は2反弱で日雇単純労働者が約半数を占めており、生活保護世帯が50世帯ある。調査は1971年8月以来、数回現地に入り、聴取悉皆調査を行い、住居の実態と住宅改善要求、居住環境に関する要求を調べた。不在、拒否のため調査戸数は167戸である。

結果 住宅改善要求をもっている世帯は75%(125戸)となっている。公共施設や住環境に関する要求を合わせると80%の世帯が何らかの改善要求をもっている。改善の内容は15%(25戸)が家全体の建替え要求をもっている。永野部落では建築年数21年以上の世帯が45%(71戸)あり、建替えの要求はこれらの老朽住宅の中からでてきている。部分的改善、増築の要求は135件にのぼっている。その中で屋根、天井、壁、土台、柱など構造材の老朽によって修繕、改築を要求しているものが30%を占めている。便所、台所、ふろの改築、新築の要求が37%あり、子供部屋、居室の増改築要求がこれに次いでいる。全体的建替や部分的改善、新築の要求は老朽化の上さらに自然災害によって余儀なくされたものであり、住宅の基本的機能にかかわるものである。これらは生活保護世帯と死人世帯に顕著にあらわれている。